

令和6年5月30日

鳥取県知事定例記者会見

6月補正予算(案)の編成

総額 64億円

防災対応力の強化

99百万円

- 官民連携によるドローン活用推進 19,400千円
- 広域防災拠点整備事業（北条） 5,600千円
- 住民共助による倒壊家屋からの救出訓練・救急救命講習 14,357千円
- 感震ブレーカー設置助成 6,000千円
- 上下水道防災研修・合同防災訓練 4,478千円
- 水位計新設・改修による津波発生時の沿岸部監視強化 9,000千円 ほか

若者目線の人口減少対策

147百万円

- とっとりEYE（愛）デジタルガイド 4,000千円
- 高校生の地域活動推進 3,000千円
- 暮らすインターンシップ 1,000千円
- 「とっとりコネクトプラットフォーム」の構築 10,000千円
- 保育士不足解消に向けた修学資金拡充（制度改正）
- 子どもの意見表明・政策提言 3,377千円
※子どもミーティング、「こどもまんなかアクション」リレーシンポジウム開催 ほか

安心・豊かな地域づくり

750百万円

- 新生児マススクリーニング検査（先天性代謝異常等検査）モデル事業 6,734千円
- 円安対策事業者向け設備投資・人材育成支援 100,000千円
- 円安対策事業者向け融資「円安緊急対策枠」（15億円）創設
- 物価高家計負担激変緩和対策 200,000千円
※低所得世帯や多子世帯などへ市町村と協調支援
- 畜産農家への飼料価格高騰対策支援 216,064千円
- 美術館開館を活用した賑わい創出 8,000千円

ほか

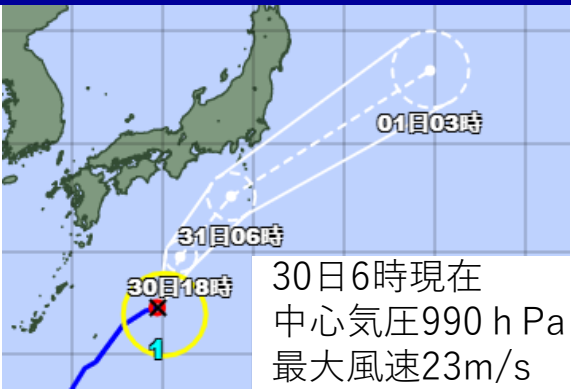
活力あるふるさとづくり

5,402百万円

- 大阪・関西万博を契機とした誘客促進 80,000千円
※関西パビリオン・鳥取県ゾーンと連動し、県全体がサテライト会場である「とっとりリアル・パビリオン」へ誘導するためのまんが・SNS活用による情報発信の機能強化、「食パラダイス鳥取県」等の地域の魅力充実、旅行商品の造成等の受け地対策などを戦略的に加速
- 日韓定期貨客船航路安定化支援 24,500千円
- 県内産業の高度化に向けた外国人材活用事業 5,000千円
※県内企業の受入態勢整備や南・東南アジア人材育成機関等との関係構築
- 大型クルーズ船に向けた鳥取港改良 25,000千円
- 公共事業（倉吉道路・倉吉関金道路、江府道路など地域高規格道路の整備促進等） 5,100百万円 ほか

ほか

台風第1号が発生 最新の気象情報等に注意してください



31日ごろに本州に最接近 ⇒ 本県への直接影響はない見込み

- ・統計開始以来7番目に遅い発生（エルニーニョ現象の影響）
- ・1号発生の早遅は年間発生数(平年25.1個)に影響しない傾向 → ハイペースで発生

コミュニティ・ドライブ・シェアによるねんりんピック交通対策

住民・市町村・交通事業者等が協力して、**ねんりんピック**で
ライドシェアを含む「おもてなし交通」を実施します。

6月補正予算：480万円



日本版ライドシェアの活用

広域的な観光や夜の懇親会での移動手段として、
タクシー事業者が運行管理する自家用車を活用

<主なスケジュール>

7月～8月 ドライバー募集・研修
9月 配車アプリ導入・試行



市町村が運行するコミュニティバス等

主に中山間地域において競技会場から町内観光地、飲食
店等の移動手段として各市町村の
交通空白地有償運送を活用



観光ツアー

県内の主な観光施設を巡る周遊ツアーや、
各市町村の観光施設に立ち寄る
ミニ観光ツアーを実施



貸切バス

競技会場と宿泊施設、最寄り駅等を結ぶ
貸切バスを運行



鳥取県庁「人間主導AI(ええ愛)ガイドライン」の策定

- 暫定ガイドラインを見直し、自治体デジタル倫理原則を踏まえたAIのガイドラインを策定(6/1施行)
- 明日第2回自治体デジタル倫理原則推進本部会議を開催し、AIの適切な運用を庁内に徹底

■ 人間主導AI(ええ愛)ガイドライン

① 自治体デジタル倫理原則を反映

- ・ AI任せにしない職員による責任ある運用
 - ▷ 人間の判断で決定・実行 等
- ・ 意図しない権利侵害の防止など人権保障を具体化
 - ▷ 個人情報の保護や知的財産権を侵害するリスクへの配慮 等

② 業務リスクに即した適切なAI活用の推進

- ・ 県民等への影響別にリスクを4段階に整理
 - ▷ 倫理原則を踏まえた積極活用、意思決定や民意集約での活用禁止 等

③ 汎用生成AI活用の高度化

- ・ 従来用途(文章要約、翻訳、プログラミング支援)に加え、業務効率化に向け活用範囲を拡大
 - ▷ 文章の校正・添削チェック
 - ▷ 読み手に応じた言い換え
 - ▷ アイデア出しのためのヒント集め 等

AI活用のリスクに即した運用基準

リスクレベル	内容
Lv4 容認できないリスク	× 禁止業務 民主主義や地方自治の本旨に反する活用を制限 <ul style="list-style-type: none">▷ 意思決定・民意集約(住民の意見に基づき、人間が最終判断)▷ 人権侵害の恐れがあるもの
Lv3 高リスク	⚠ 要注意業務 リスク管理、データガバナンス、セキュリティ確保を特に注意し活用 <ul style="list-style-type: none">▷ 生命・財産に大きな影響を及ぼす可能性のある社会インフラの運用・管理等の業務(例)災害時の状況判断▷ 教育等、機微情報を取り扱う業務(例)自動採点システム
Lv2 限定的なリスク	! 要配慮業務 AIの出力傾向の把握等により、責任ある運用に配慮しつつ活用 <ul style="list-style-type: none">▷ 県民等の直接利用を想定したAIサービス(例)自動応答型のAIチャットボット▷ AIによる出力結果をそのまま提供する業務(例)AI婚活マッチングシステム
Lv1 最小限のリスク	◎ 積極活用業務 自治体デジタル倫理原則を踏まえつつ、適切に活用 <ul style="list-style-type: none">▷ 業務効率化や行政サービス向上に向け、積極的に活用(例)AI音声認識議事録作成支援、AI-OCR

※EUの「AI規制法」におけるリスクベースアプローチ(4分類)を参考に作成

【遵守事項】

- ① 出力したものをそのまま利用しない
- ② 出力結果の根拠を確認
- ③ 機密情報は入力しない
- ④ 著作権侵害等が危惧される情報は扱わない
- ⑤ 違法行為等、不正な目的での利用禁止
- ⑥ 原則、「県庁生成AIシステム」を利用

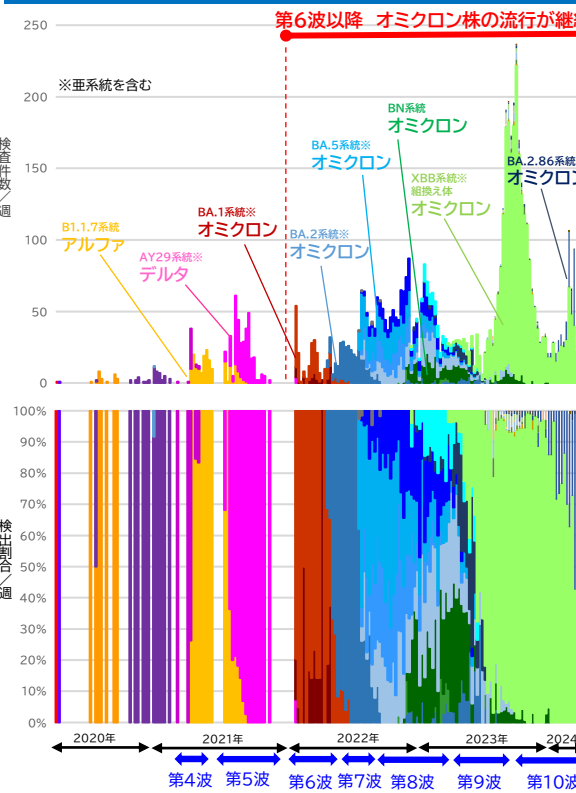
新型コロナ対策の検証

感謝状贈呈



6/2、新型コロナ対策に多大な貢献をいただいた入院協力医療機関、鳥取県医師会等の47団体と10名の功労者に対して、知事感謝状を贈呈

ゲノム解析による変異株の推移



○新型コロナの発生状況と県実施対策の経験等を踏まえ、今後の新興感染症に備えた医療・検査体制等を構築
○県新型インフルエンザ等対策行動計画の改定に反映

鳥取県の新型コロナウイルス感染症対策検証報告書 本日、公表

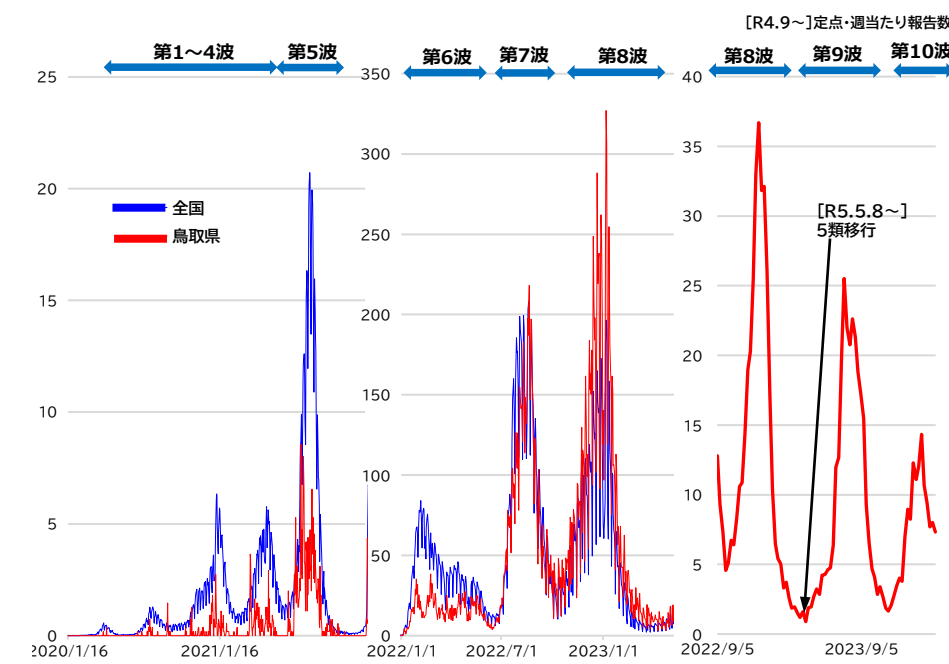
本県は、新型コロナの病原性・感染性等に即し、命と健康を守るため、感染症対策を機動的に実施し、全国で最も感染者、死者を抑えた

- 第1波～第5波
 - 令和2年1月に国内初、4月に県内初の感染
 - ➔ 治療薬、ワクチンがない中での初動対応
 - ・「早期検査」「早期入院」「早期治療」の「鳥取方式」を基本
 - ・徹底した疫学調査、早期・幅広検査で感染拡大を抑制
 - ・入院協力医療機関の病床確保、幅広い医療機関で外来診療
 - 第5波(デルタ株)では感染者数が急増
 - ➔ メディカルチェックで評価し、入院等療養先を調整、宿泊・在宅療養を併用した「鳥取方式+α」へ
- 第6波～第8波
 - “オミクロン株”により病原性・感染性等が大きく変化し、感染者数が急増(病原性は低下)
 - ※優先変異株が変わるときは、患者数が増加する傾向あり
 - ➔ 変異株の特性に即して感染対策を転換
 - ・全国に先駆けて発生届重点化+陽性者コンタクトセンター
 - ・高齢者施設、医療機関等の感染予防・クラスター対策を独自強化
- 第9波～第10波
 - 感染症法上の5類感染症へ
 - ➔ 対策は経過措置を講じつつ、幅広い医療機関で外来・入院等を行う体制へ

【感染者数等】

流行期	感染者数	死亡者数	致死率 (死亡者数÷感染者数)
第1波～第5波	1,669人	5人	0.300%
第6波～第8波 (新型コロナが直接死因のみ)	142,302人	262人 (88人)	0.184% (0.062%)

新規感染者数の推移等 (第1波から第10波まで)



国との連携 ～今後の感染症危機に備える～

新型インフルエンザ等対策推進会議に出席 6月中のとりまとめへ
新型インフル等対策政府行動計画の改定の議論 (全国知事会の立場で意見)

(株)エイチ・アイ・エスとの インバウンド観光推進に関する協定締結

インバウンド市場の多角化を推進し、**世界からの誘客を促進するため**「インバウンド観光推進に関する協定」を締結

- 締結 令和6年6月5日(水) (SANDBOX TOTTORI)
矢田 素史(株)エイチ・アイ・エス代表取締役社長、平井知事
- 目的 相互に連携し、アジア地域や欧米などからの外国人観光客の誘客を推進

- 連携内容
海外における鳥取県のブランド力向上、
海外プロモーションの展開、
インバウンドツアーの企画・販売、
マーケティング・リサーチなど



脱炭素社会の実現に向けて 学生チーム 本日発足



地域の温暖化防止活動をリードする
若きリーダーを育成!

団体名: **TottoReborn! Youth (通称:TRY!)**

参加学生: 環境大、鳥大等を中心に21名で発足

※温対法に基づく**地球温暖化防止活動推進員の学生部会(全国初!)**

活動概要:

- ・地球温暖化防止策等をSNSで発信
- ・企業の脱炭素経営の取材、
県に政策提案等
- ・環境先進自治体との交流等



天然イワガキ販売開始

6月1日 赤碕・境港から天然イワガキの初セリ開始

- ◇ 6月1日(土) 赤碕・境港
- ◇ 6月2日(日) 田後・網代・賀露

☆ 漁獲量回復のため、6月補正で田後・浜村・長和瀬地区でイワガキ礁の移設試験を実施予定(11百万円)
※巻貝による食害被害を受けない
砂地へ移設



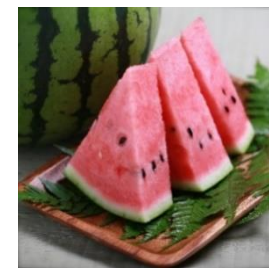
トッブランド夏輝
県産天然かつ殻高13cm以上

鳥取すいかの販売開始

5月30日 泊から鳥取すいかの販売開始

- ◇ 5月30日(木) 泊、6月1日(土) 倉吉
- ◇ 6月3日(月) 大栄、6月4日(火) 琴浦

5月の好天で**鳥取すいか史上最高糖度**



大阪での販売セレモニー

6月7日(金)に大阪市中央卸売市場本場において
JA全農とつとりと連携して鳥取すいかをPR
※6月10日(月)東京での販売セレモニーも予定



2023年度セレモニーの様子